

平成26年度事業報告

はじめに

平成26年度は、施設としてはじめて『理念』を掲げ、施設全体での目指す方向性を示した年となった。この理念のもと、①「オールあすなろ」②「自立支援介護」③「人財育成」を重点課題として事業を推進し、ご利用者・ご家族・地域・職員の笑顔があふれる『あすなろの家』にするために努力を重ねた。

「オールあすなろ」

各部署の垣根を取り除き、さまざまな面においてあすなろ全体でひとつの方向を目指すという取り組みです。平成24年度から本格的に取り組み始め、各部署間でよい刺激を受け合い、よい影響を与えていることが各所に見られます。業務連携の部分では、引き続きデイと特養の業務連携の他、新たに特養職員がケアハウス業務を兼務、またヘルパーもケアハウス業務・特養業務・デイ業務を兼務するなど連携の幅を更に拡大した。

毎年恒例の納涼祭では、山原自治会長さんをはじめ、飯田地区社協のみなさん、山原S型さくら会のみなさん、かっぼれ会、子ども会、他にもたくさんの方の団体のみなさんにご協力いただき、盛大に執り行うことができた。また撮らせていただいたみなさんの笑顔の写真を玄関ホールに展示するなど新たな企画にも取り組んだ。



その他、職員食堂をごく一部の職員しか使用していない現状もあり、全職員が食堂で昼食を食べる

ことをはじめ、普段話をするのがほとんどない他部署の職員同士と一緒に食事をするなかで、自然と会話ができる環境を整えることができた。「キラキラDay」という取り組みでは、基本方針4にもあるように、ご利用者に安全で気持ちよく生活して頂ける環境を提供することを目的に、3ヶ月に1回ではあるが、全部署から20名程度が集まり、30分間施設内で場所を決め清掃作業にも取り組んだ。職員の子供さんを対象に、「夏休み!あすなろの家に来てみよう」という企画も実施した。これは、10日間ほどではあるが、職員からの

「この日だけは子供の面倒を見てくれる人がいない」

「子供が家に独りになってしまうので早退させてほしい」などの声になんとか答えようと、職員の福利厚生と、お年寄りにとっても日常とは違う楽しみを提供することにも繋がったと思う。



「自立支援介護」

その人らしく、食べたいものを食べる・清潔に気持ちよく過ごす・行きたいところに行くなどの個別ケアの実現の前に、高齢者ケアの基本「水分」「食事」「排泄」「運動」の大切さをもう一度見直す。25年度は、施設の幹部職員が学習を始め、自立支援介護の導入期として取り組んだが、26年度は、職員全体で自立支援介護について学び、正しい知識と技術を習得し、それを利用者・家族・地域に還元できるよう、自立支援型の施設・在宅支援を目指した。

特養では、下肢の運動器具とトイレで排泄するための器具を購入、また同じものを家族会からも寄付していただき、お年寄りの生活の中でそれらを活用し、運動の機会を増やし・トイレで排泄できるように努力した。そして、長年使用してきた布おむつから、紙オムツ「テーナ」に変更し、気持ちよく、自分らしい生活、そして社会的不利益の無い状態を目指した。この変更は自立支援介護の水分ケア・運動（歩行）をより充実させ、安全な見守り体制（おむつ交換・トイレ誘導の時間・洗濯の削減できる）をつくり、お年寄りと関わる時間をつくることができた。

その他、毎月行われる各部署会議で、特養職員が講師になり勉強会と簡単なテストを年間通して実施した。また飯田地区S型デイボランティア交流会では、パワーポイントを使い自立支援研修会を開催させていただき、地域に向けて発信することができた。

今期実施してきたことを確実にしていくには、特養のケアの体制を大きく変更し、お年寄りも職員も小さな集団としていき、お年寄りに対しても職員に対しても、より目が行き届く形にしなければならない（ユニットケアに近いもの）。この体制が取れば、今期発生した重大な事故や苦情への対策としても有効だと考える。また自立支援を行うに当たって、ご本人とご家族には十分な説明を行い、共通の認識をきちっと持つことを重要だと考えている。

「人財育成」

職員の育成では、内部研修（別紙）の充実を図った。半期ごとの研修計画を作成し、各職員が自身のスキル向上に必要な研修を自分自身で選択し参加する。また講師となるのも職員自身であり、学んできたことをいかに皆に伝えられるか、理解してもらおうかを考える機会となり、それもまた成長に繋がっている。

25年度に引き続き評価システムにより半期ごとの評価シートを作成し、自己評価・主任評価、主任面談・施設長面談を行った。また介護職員・看護職員・ケアマネ・調理員など多職種が存在する中では、項目によっては自己評価において自身の評価を適切にできない職種もあることから、とりあえず介護職員用の評価シートを新たに作成し27年度から運用することとした。しかし各職員が自身のスキルアップに繋がっているという実感を持ってもらうまでには至っていない状況であるので、来期以降さらなる進化を考えなければならない。

一方で、重大な事故やヒヤリハットの増大と職員のリスク管理の意識の低下が目立った年でもあった。この点については、特養・ショートの体制変更の実施により目の届く介護環境を作ること、そしてオールあすなるの意識をさらに強化し、情報の共有、意識の共有を持たせ、対策につなげて、安全な生活につなげていきたいと考えている。

平成26年度(上半期) あすなろの家内部研修一覧

h26.3.17

	研修名	研修目標(目的)		分野	研修講師 (敬称略)	日程
1	リスクマネジメント講座 (応用編)	事故発生後の対処方法についての実践的なノウハウや事故事例の他、事故防止の取り組みについて学ぶ	・施設のリスクマネジメント ・認知症利用者の事故防止対策 ・事例検討研修	C	永井愛美	5/19 (月)
2	健康づくり研修会	栄養管理に努めることにより、喫食者の栄養状態の改善、健康の維持向上を図る	ふじ33(さんさん)プログラム講話と実技 ふじ33プログラムとは…社会の高齢化が急速に加速していく中、静岡県は、県民の健康寿命のさらなる延伸を目指して、「ふじ33プログラムの普及」等を実施しています。ふじ33プログラムとは、働き盛りの世代を対象とした個人の健康づくりを支援するため、運動習慣・食生活の改善・社会参加をメニューに取り入れた静岡県独自の健康づくりプログラムです。	D	加藤悦子	6/19 (木)
3	「できることより「したいこと」を！ 介護現場の レクリエーション方法	あなたの得意技とキャラを活かせば、もっと面白くなる！ 障害や認知症があっても大丈夫！様々な場面で使えるネタを紹介します！		B	望月智子	7/22 (月)
4	高齢者の転倒予防講座	施設における高齢者の転倒を予防するため、転倒のメカニズム・傾向・対策等の知識・技術を習得し、自施設での介入のヒントを探る	・施設での転倒予防に対する取り組みの紹介 ・転倒予防に対するアプローチ ・症例紹介 ・身体機能維持を目的とした簡単なストレッチング	B	金田裕美	8/20 (水)
5	大災害が起きた時、 できること できないこと	「私達が生きている間に、東海地震は起きない」と思っていますか？私たちの街「清水」は津波で壊滅する事はないと考えますか？～災害時のケアスタッフの役割は何か、大事な事は何か、防災について見直す機会にしましょう！（ケアマネ以外にも有意義な内容です）	・「東日本大震災 ケアマネージャーができたこと できなかったことそして今」 ・「静岡市の防災対策と我が家の地震対策」 ・「災害時要援護者避難支援制度・福祉避難所の現状」	C	山田統子	9/19 (金)
6	タクティールケア体験講習	認知症緩和タッチケアを体験してみませんか？ タクティールとは、ラテン語のタクティリスに由来し「触れる」という意味があります。相手の背中や手足をやわらかく包み込むように触れることで安心と信頼の感情が引き起こされ、痛みや不安を緩和するスウェーデン生まれの認知症ケアを学びましょう！	タクティールケアの 理論、実演、体験	B	中本 真由美	9/22 (月)
7	移乗用介護リフト	高齢者施設で働く介護、看護職の腰痛予防のためのリフト導入が進んでいる。厚労省は19年ぶりに職場の腰痛予防対策指針を改訂した。移乗介助に介護リフトなど福祉機器を積極的に活用することを明記し、原則「人力による人の抱え上げは行わせないこと」という一文を盛り込んでいる。ふれあいや肌と肌のコミュニケーションが日本の介護現場ではよしとされてきたが、リフトを使うことで介護スタッフの負担軽減のほか、入居者にとっても安心、心理的負担軽減につながっている、との分析もある。導入云々ではなく、知識として学んでみよう	リフトの展示、実演、体験	B	シーホネンス 株式会社	7/16 (水) 予定
8	トロミ剤使用方法	嚥下を助けるはずのトロミ剤も使用方法を誤ると事故を招きます。事故防止のため正しい知識を習得する	トロミ剤の使用方法について 実技含めた講義	B	三和化学 研究所	6/18 (水) 予定

* 研修分野 A:基本姿勢・知識・教養・倫理等 B:接遇・介護技術・医療技術等 C:実務力・チームワーク・リスク対応 D:メンタルマネジメント等 E:主任・指導的職員等育成

平成26年度(下半期) あすなろの家内部研修一覧

h26.9

	研修名	研修目標(目的) 研修内容	分野	研修講師 (敬称略)	日程
1	認知症の人のための レクリエーション	認知症の方の想いや笑顔、能力を引き出すレクリエーション ・認知症の中核症状、行動・心理症状から、その人にとっての レクを考える ・認知症の方の能力を引き出すレクリエーションの方法、進 行、役割	B	中村若菜	11/11 (火)
2	セルフケア	平成 18 年厚労省は「労働者の心の健康の保持増進のための 指針」を公表しメンタルヘルスケアの原則的な実施方法を定め ました。「セルフケア」の目的は自らがストレス関連疾患(うつ 病)を予防する知識を身に付けるとともに、何よりも「気づき」に よる早期発見早期治療を促し、健康の確保を期待する。「うつ についての理解」「ストレス」について学びましょう	D	源平安代	12/8 (月)
3	傾聴講座 ～聴く人がいる時、喜びは 増し、苦しみは和らぐ 見 守る人がいる時人は共に 生きていくことができる～	はなすこと、きくこと ～対人援助のコミュニケーションの基本を学ぶ～ 一人ひとりに出会う援助 ～傾聴・受容・共感のための方法を学ぶ～ 認知症ケアでの傾聴 ～体験に学ぶ。寄り添うことのよろこび・大変さ～	B	望月涼	H27 1/15 (木)
4	介護技術基礎講座 あなたの介護技術、 見直してみませんか。 ボディメカニクスを活 用した介助法を学ぼう	「体の仕組みと働きの理解」 ・移乗、移動における介護の原則 ・ボディメカニクスの理解 実技・立位の技法・歩行介助・移動介助 ベッド上の移動と座位・移乗・移動等	B	宮原洋子 皆川夏江	11/6 (木)
5	介護職の腰痛をなくそ う！ ～腰にやさしい 介助法について～	介護の仕事は、重労働で腰を痛めている人が少なくありませ ん。自分自身の身体を知ることと、ほんの少しのコツで腰痛は 防ぐことが出来ます。講義では腰痛から身体を守る「インナー マッスル」と「介助動作のポイント」についてお話します。実技 では腰に負担がかかりにくい介助動作を検討しながら行って 頂きます。また腰痛予防のためのセルフケアも紹介します。	D	若杉初代	H27 2/10 (火)
6	認知症の理解/対応		B	外部講師	11月 予定
7	介護保険制度の概要		A	外部講師	H27 2月 予定

* 研修分野

A:基本姿勢・知識・教養・倫理等 B: 接遇・介護技術・医療技術等 C: 実務力・チームワーク・リスク対応 D:メンタルマ
ネジメント等E:主任・指導的職員等育成

★6, 7については講師の調整の関係で中止になる場合もあります。ご了承ください。